

# 平成 29 年度桐生市景観講演会「世界で見つけた魅惑の鉄道情景」

(桐生市主催・群馬県都市計画協会共催)

桐生市では、平成 28 年 4 月に景観計画・景観条例、平成 29 年度には屋外広告物条例を施行し、景観形成に関わる取り組みを実施しております。取り組みを始めて感じるのですが、「景観」という言葉を目に、耳にする機会は多くありますが、われわれ行政も含め市民のみならず、抽象的なこの言葉の意味するところを、あまり深く考えることがないように思います。

「景観」とは、「私たちの視点の先にあるもの（意識して目にするもの）」を言い、景観形成（景観を整える）とは、「私たちが目にするものを如何に魅力的に見せるか（素敵に見せるか）」という意があるようです。この「景観」という概念を具現化し、多くの方にわかりやすく伝えていくことが重要な業務のひとつであると考えております。そこで「景観」を具現化する手段として、スマートフォンやデジタルカメラ等の普及から、自己表現や情報発信に活用され、多くの方々に馴染みのある「写真」に着目し、平成 29 年 3 月 10 日（土曜日）に景観講演会を開催しました。

講演会では、先ず「市の取り組み」について説明し、「良い景観とは、見たいものが見やすい状態にあること」、「日々の生活では視野のうち、上下方向約 20 度（建物の 1 階部分が該当）に映るものが見やすいものであり、この範囲を如何に魅力的に見せるか」といった景観形成の考え方をお伝えしました。

次に、「世界で見つけた魅惑の鉄道情景」と題し、テレビなどでも活躍中の鉄道写真家の「中井精也氏」をお迎えし、わたらせ渓谷鉄道や上毛電気鉄道などの美しい鉄道写真を次々にご紹介いただき、また、国内のみでなく、パリやハンガリー、ミャンマーなど世界各地の魅力ある景観や情景について、ユーモアいっぱいにお話しいただきました。「カメラとは、目の前にあるものを映すものであり、目の前にあるもの、見えるものしか映せない機械である。」、しかしながら、「写真というのは、目の前にあるものだけを映すのではなく、自分の想い、イメージをプラスして現実では見えないものも表現できる。それが写真の楽しさだと思う。」と語り、「どんな電車が来るのだろうか?」、「この先に何があるのだろうか?」といった想像を掻き立てる印象的な写真やその場の空気感・情景も含めて撮影し、人々に共感してもらえる『印象派写真』を心がけているとのことで、中井氏の特徴でもある「ゆる鉄」について、その表現手法等を紹介していただきました。

このことは、「どう見せるか?!」、「目にするものの背景を如何に感じてもらうか?!」といった『景観を伝える』手法にも通ずるものがあり、事務局としても大変参考になりました。

結びに、「景観をつくるのはそこに暮らす人」、「人の営みがあってこそ魅力的な景観があり、魅力的な写真を撮ることができる。」と語り、「何気ない日々の暮らしのなかに、魅力的な情景・景観は潜んでおり、それらを見つけ、写真に残していきたい。」と作品づくりのポイントをお話しいただいたことが印象的でした。

「写真」という観点から、多くのみなさまが景観を意識し、考えていただくきっかけづくりとなる、笑顔あふれる楽しい講演会になりました。

